



〈雑録〉英吉利ニ於ケル土地問題ノ研究(其二)

津村, 秀松

(Citation)

経済學商業學國民經濟雜誌, 7(6):895*-900

(Issue Date)

1909-12

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00051488>



英吉利ニ於ケル土地

問題ノ研究 (其二)

津村 秀松

六

「土地ニ歸レ」、「田園ニ復歸セヨ」トノ聲ハ、
今ヤ國民ノ聲トナレリ。英國民タルモノ此際田
舎ニ歸テ獨逸ノ如キ深耕法ニ從事セバ、此上多
數ノ人口ヲ包容シ得可キカトイフニ、次表ハ之
ヲ證明シテ餘リアルモノ也

	總人口	農民及漁民	割合
獨逸 (一八九五年)	五二、〇〇〇千人	八、二九二千人	六分の一
英吉利 (一九〇一年)	三九、〇〇〇千人	二、二六五千人	十七分の一

由是觀之、若シ英吉利ノ農業ニシテ、獨逸同様
ノ發達ヲ見シニハ、農民ノ數ハ忽チ三倍トナリ

得可キ勘定ナリ。而シテ農民ニシテ増加センニハ、農民ヲ得意先トシ、間接ニ農業ニヨリ衣食シ得可キ、地方ノ商工民モ亦増加セン。方今、獨逸ニ於ケル地方住民統計ヲ見ルニ、千九百五年總人口六千三十萬人中、

人口百以下ノ村ニ於テ

八五〇、二三一

人口百以上五百以下ノ村ニ於テ

一〇、三〇七、七四七

人口五百以上千以下ノ村ニ於テ

八、〇七三、八四三

人口千以上二千以下ノ村ニ於テ

六、五九〇、六六〇

人口二千以上五千以下ノ村ニ於テ

七、一五八、六八五

地方人口總計

三二、九八一、一六六

ノ勘定ナリ。即チ獨逸人口ノ五割五分ハ田舎ニ住居スルモノトス。英吉利ニハ此種ノ統計ヲ缺クガ故ニ、正確ナル比較研究ヲナス能ハザレドモ、凡ソ英吉利ノ現人口四千五百萬人中、人口五千以下ノ町村ニ住スルモノハ、合計千百萬人乃至千二百萬人ト稱セラル。即チ約二割五分ニ過ギズシテ、獨逸ノ半ニモ及バズ、英吉利人口

四千五百萬人ノ五割五分ハ、二千五百萬人ナルガ故ニ、若シ英吉利ノ農業ニシテ獨逸ノ如キ狀況ナランニハ、此上、地方ニ千三百五十萬人ヲ容ル、ノ餘地生ズ可シ、彼ノ都會ニ於ケル人口充溢問題、從テ生ズル住宅問題ノ如キ、自カラ解決セラレン。

勿論、英吉利ノ面積ハ獨逸ノ如ク廣カラズ、獨逸ノ面積ハ二十萬八千七百四十方哩ニシテ、英吉利ノ面積ハ十二萬三千三百七十一方哩ナルガ故ニ、其間ノ割合五ト三ナリ、サレド此點ヨリ云フモ、尙ホ英吉利ハ地方ニ二千萬ノ人口ヲ包容シ得可キ勘定ニシテ、現在ニ比シ、約一千萬人ノ増加ヲ見得キ筈ナリ。況ンヤ英吉利ハ獨逸ニ比シ、地味、地位、地勢、氣候等、一切ノ自然的狀態ニ於テ、遙ニ優秀ナルニ於テヤヤ。サレドモ人口ノ移轉、殊ニ都會ノ人口ヲ田舎ニ移住セシムルコトハ、決シテ容易ノ業ニアラザルベキヲ以テ、假リニ可能數ヲ半減スルモ、尙ホ

約五百萬ノ人口、百萬ノ家族ヲ容ル、ノ餘地生ズ可シ、地方繁榮策ヲ講ズルノ極テ切要ナルコト、之レニテモ容易ニ首肯シ得可ケム。

七

次ニ兩國ノ農業ヲ比較研究スルニ當テ、常ニ

自作 農地

獨逸(一八九五年)

三七、二七〇(即チ全耕地ノ八割七分四厘)

英吉利(一九〇七年)

三、九二七(即チ全耕地ノ一割二分二厘)

更ニ一層精密ナル狀況ハ、次表ニ徴シテ明カナル可シ。

獨逸 (一八九五年調査)

一人ノ所有地積 ヘクタール	地主數	全地積 ヘクタール
五 以下	三、二二六、三六七	二、四一五、九一四
五 乃至 十二半	一、〇一六、三一八	四、一四二、〇七一
十二半 乃至 五十	九九八、八〇四	二、五三七、六六〇
五十 乃至 百二十五	二三九、六四三	九、四五九、二四〇
百二十五 乃至 二百五十	四二、一二四	三、六九七、九六一
二百五十 乃至 千二百五十	二〇、八八一	六、五七一、一〇四

看過スベカラザル要素ハ、兩國ノ農民ノ性質全然相反スルコト是レ也。即チ等シク農民ト稱スルモ、獨逸ニ於テハ多ク自作農ニシテ、英吉利ニ於テ多ク小作農ナリ。左ニ統計ヲ以テ之ヲ示サム

小作 農地

五、三六〇(即チ全耕地ノ一割二分六厘)

二八、二八四(即チ全耕地ノ八割七分八厘)

千二百五十以上

四、一八〇

合計

四、四六〇、七九二
四三、二八四、七四二

英吉利 (一八七三年調査)

一人ノ所有地積 ヘクタール	地主數	全地積 ヘクタール
一 以下	八二五、二七二	六二九、八五二
一 乃至 十	二二一、九八三	四七八、六八〇
十 乃至 五十	七二、六四〇	一、七五〇、〇八〇
五十 乃至 百	二五、八三九	一、七九一、六〇六
百 乃至 五百	三二、三一七	六、八二七、三四七
五百 乃至 千	四、七九九	三、三一七、六七八

千 以 上 五、四〇八 一八、六九五、五二八

合 計 三三、四九〇、七七一

由是觀之、兩國ニ於ケル土地分割ノ狀況甚シク異ナルヲ見ル、獨逸ニ於テハ土地ノ半ハ五十「エークル」以下ノ小地主ニ依テ所有セラレ、之ニ反シ、英吉利ニ於テハ土地ノ半以上ハ千「エークル」以上ノ大地主僅々五千四百八人ニ依テ占有セラレ、此ノ如キ大地主ハ獨逸ニアツテハ僅ニ土地ノ一割ヲ占有スルニ過ギズ、斯クテ獨逸ニ於テハ、土地ノ大部分ハ小地主ノ間ニ分割セラレ農民ノ大部分ハ皆土地ヲ所有スルガ故ニ累代我ガ子ノ如クニ土地ヲ愛撫シ、勞力資本ヲ加フルヲ惜マザルヨリ、土地ハ益々改良セラレ、作物ハ愈々増加スル也。又此ノ如クニシテ農業ノ利益減少セザルガ故ニ、英吉利ノ如クニ農民モ亦減少セズ、農村モ亦衰頽セザル也。次ニ揭グル所ノ普魯亞ノ農民統計ハ之ヲ立證シテ餘リアル可シ。

	一八九五年	一九〇七年
獨立農民	一、三九二 千人	一、三五七 千人
被雇人	三、三九〇	四、五一九
兒童	六、三三二	四、八六二
僕婢	二六〇	一二三
合 計	一一、三七五	一〇、八六三

由是觀之、過去十二年間ニ於ケル普魯亞ノ農民(殊ニ獨立農民ノ如キ)ハ殆ド減少ノ跡ナク唯兒童ハ嘗テ田圃ノ間ニ使役セラレ、今ハ工場ニ出入スルニ至リタルヨリ、著シク減少セルノミ。等シク農業ト稱スルモ、獨逸ノ如ク専ラ自作農ナルカ、將又英吉利ノ如ク専ラ小作農ナルカニヨリ、其ノ結果ニ於テ霄壤ノ差ヲ見ル。一世紀前ニ有名ナル農學者 Arthur Young ハ、The magic of property turns sand to gold. Give a man the secure possession of a bleak rock and he will turn it into a garden ト言ヘリ。又一世紀半前ニ Adam Smith ハ富國論中ニ於テ、A small proprietor, who knows every part of his little territory,

who views it with all the affection which property, especially small property, naturally inspires, and who, upon that account, takes pleasure not only in cultivating but in adorning it, is generally of all approvers the most industrious, the most intelligent and the most successful ト斷ゼリ、而シテ此ノ如キハ一世紀前又ハ一世紀半前ヨリモ、今日ニ於テ一層明白ナル真理ナル可シ。農民尙ホ多カリシ時代、工業未ダ盛シナラザリシ時代、農夫ニシテ新聞紙ヲ讀ム者稀ナリシ時代、交通ハ不便ニシテ旅費高カリシ時代タル昔日ニハ、田舎ハ自カラ別天地ヲナシテ、農民ハ其日暮シノ生活ニモ甘ジタリキ、然ルニ今ヤ時代ハ一變シヌ。利害ノ上ヨリスルモ、感情ノ上ヨリスルモ、人々ハ立身ノ機會少キ田舎ニ朽チ果テンコトヲ好マズ、盛ニ都會ニ走り、遠ク海外ニ赴ク

八

抑モ農業上ニ於テ英吉利ノ獨逸ニ劣ル所以ハ

單ニ小地主少キガ爲メノミニアラズ、又單ニ自作農多カラザルガ爲メノミニモアラズ、實ニ小作人ノ借地契約期間極テ短期ニシテ、容易ニ取リ上ケラル、ノ危險多キニ歸ス可シ。之レアルガ故ニ、小作地ニ對シ改良ヲ加エ從テ收穫増加セバ地代ハ引上ラル可ク、改良ヲ加エズ從テ收穫減少セバ地代ハ引下ラル可ク、結局、耕地ノ改良收穫ノ増加ハ地主ノ利益トナルモ、小作人ノ不利益トナルナリ。此結果、農業ノ盛衰ニ關スル地主ノ利害ハ直接ナレドモ、小作人ノ利害ハ間接ノミ。然ルニ間接ニ利害ヲ感ズルニ過ギザル小作人竝ニ農夫ハ二百萬人ニモ上リテ、農民中ノ一大部分ヲ占メ、直接ニ利害ヲ感ズル地主ハ數千人ニ過ギズシテ、農民中ノ一小部分ノミ、之ヲ以テ地主ニ對スル迫害的立法屢々起リ其ノ結果ハ一般農民ノ利害休戚ニ關スル所大ナルモノナルモ、之ニ對スル反抗力極テ微弱ナル也。殊ニ農夫 (Agricultural Labourers) ノ如キ

ニ至テハ、唯單ニ其日々ノ賃銀ノミヲ目的トシ農業ニシテ賃銀少ケレバ工業ニ從事ス可ク、海外ニ走ルモ辭セザルノ覺悟アルヲ以テ、農業ノ盛衰ノ如キ、初メヨリ問フ所ニアラズ、之レ彼等ガ自由黨ヲ初メ過激ナル煽動者ノ爲メニ屢々利用セラル、所以ニシテ、嘗テ穀物條例廢止ノ運動旺ンナルヤ、之ニモ亦加擔スルヲ辭セザリキ、

以上論ズル所ヲ以テ之ヲ見レバ、今日、英吉利ニ於ケル農業復興ノ必要ニ際シ、先ヅ第一ニ着手セザルベカラザルハ、獨立農ノ増加ニ在リ出來得可キ限り、小作人又ハ農夫ヲ變ジテ小自作地主タラシムルノ政策ヲ採ルニアル可シ、而シテ此種ノ政策ヲ採用セントスルモノハ、實ニ統一黨ヲ初メ關稅改革論者ニシテ、此種ノ政策ニ反對セントスルモノハ、實ニ自由黨ヲ初メ社會主義論者ナリ。關稅改革反對論者ハ往々關稅改革論ヲ以テ保護主義ノ化身ナリト評ス。然リ寔ニ其ノ言ノ如ク保護主義ナリ。英吉利ノ田舍

ニ於ケル農業竝ニ都會ニ於ケル工業ヲ保護セントスルモノナリ。工業ノ販路ヲ安全ナラシメントスルト同時ニ、農業ノ衰頽ヲ防ギ、農業ノ復活ト農村ノ繁榮トニヨリ、健全ナル發達ヲ遂ゲントスルモノナリ、而シテ其ノ目的ヲ達セントセバ、須ラク先ヅ英吉利ニ於ケル現土地所有狀態ヲ變ジテ、無數ノ小獨立農ヲ増加セザルベカラザルヲ認ムルモノナリ、由是觀之、土地改革問題ト關稅改革問題トハ、期セズシテ同一問題ノ表裏兩面ヲナスモノナル可ク從テ同時ニ解決セザルベカラザル可ク、從テ同時ニ成就シ得可キモノナルヲ知ル。然ルニ今ヤ現自由黨内閣ハ、社會黨ノ主張ヲ容レ、今回ノ豫算案ニ於テ、新ニ土地ニ三種ノ租稅ヲ課シテ以テ、此國民的、帝國的一大問題ヲ破壞シ去ラントス、恐ル可キハ英吉利ニ於ケル社會主義的立法ノ增長ナルベシ

(完結)